



第3期 ふくおか元気向上チャレンジ

(在宅高齢者の要介護状態改善事業)



事業説明会

【本日の次第】

- 1 主催者挨拶(介護保険課長 平川卓浩)
- 2 ふくおか元気向上チャレンジ 事業説明
(介護保険課 梅崎)
- 3 事例発表((株)ケア美野島 代表取締役 工藤様)
- 4 インタビュー((株)ケア美野島 代表取締役 工藤様)

第3期 ふくおか元気向上チャレンジ

(在宅高齢者の要介護状態改善事業)



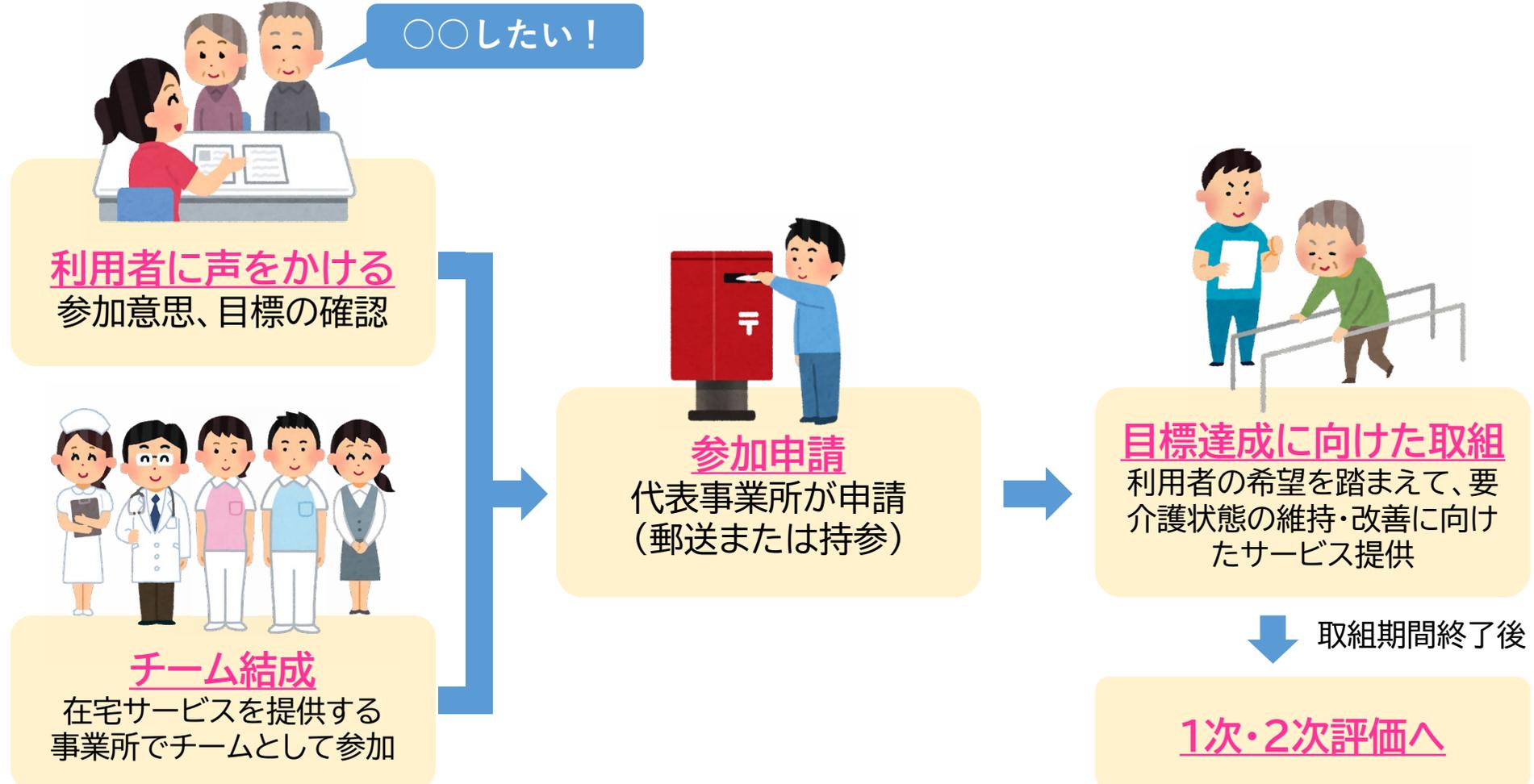
事業説明

福岡市 福祉局 高齢社会部 介護保険課

- 令和4年度に開始した事業で今回が第3期
- 利用者の「**したい・やりたい(目標)**」を実現するための要介護度やADL等の改善・維持に向けた**チーム(利用者、介護事業所)の取組みを評価**
- 重度化防止に対する意識・意欲の向上や介護サービスの質の向上に繋げていくもの
- 取組み結果に応じて**認証や表彰などのインセンティブ**をお渡し
- 参加チーム数
第1期(R4):37チーム
第2期(R5～R6):27チーム
第3期(R6～R7):たくさんのご参加をお待ちしています!

参加の流れについて

- 利用者に声をかけて、参加意思を確認のうえ、取組目標(したい、やりたい)を設定
- ケアに関わる在宅サービスの提供事業所でチームを結成
- 代表事業所が、申請書に利用者の同意書を添えて提出
- 目標達成に向けた取組(サービス提供)の実施



参加要件

利用者

- ✓ 要介護度やADL等の改善・維持に向けた意欲のある方
- ✓ 個人情報等の取扱いに同意いただける方
- ✓ 在宅系サービスを利用している福岡市の介護保険被保険者(在宅系サービスの詳細は下表)
- ✓ 参加申請時点において要介護1から要介護5までの認定を受けている方
- ✓ その他、次のいずれにも該当しない方
 - ※ 直近の要介護認定結果と比較して、すでに参加申請時点において心身の状態に著しく改善がある方
 - ※ 給付制限等の対象になっている方

介護事業所

- ✓ 在宅系サービスを提供する福岡市内に所在する介護保険指定事業所(在宅系サービスの詳細は下表)
- ※ 令和5年4月1日以降に、介護保険法に基づく勧告以上の行政指導または行政処分を受けている介護事業所は、参加できません。

在宅系サービス

居宅介護支援	訪問介護	訪問看護
訪問リハビリ	訪問入浴介護	夜間対応型訪問介護
居宅療養管理指導	福祉用具貸与	定期巡回・随時対応型訪問介護看護
通所介護	通所リハビリ	地域密着型通所介護
認知症対応型通所介護	小規模多機能型居宅介護	看護小規模多機能型居宅介護
短期入所生活介護	短期入所療養介護	

- 取組期間終了後以下の手順で評価を行います。インセンティブの詳細は、7Pをご参照ください。

1次評価

参加申請時における直近の要介護認定結果と、
取組期間終了時における要介護認定結果を比較
(認定調査結果をもとに市が判定)

1 要介護度の**改善**があった場合
または
要介護度が**維持**され、**ADL等の項目が
10ポイント以上改善**した場合

2 要介護度が**維持**され、**ADL等の項目が
0～9ポイント改善等**した場合

3 上記 ①、② 以外の場合

- ※ADL等の評価指標について
認定調査票におけるADLやIADLの調査35項目
を用いる。(詳細な項目は別ページにて説明)
- ※1次評価のためには認定調査を受けていただく必要が
あります。(受けなかった場合はチャレンジ賞の受賞)

2次評価

要介護度やADL等の改善に至った
取組内容について、
評価委員会において
金賞チームを選定

評価方法については
のちほど説明



2次評価へ

一定の基準を
超えたチーム

それ以外の
チーム

インセンティブ

金賞

銀賞

銅賞

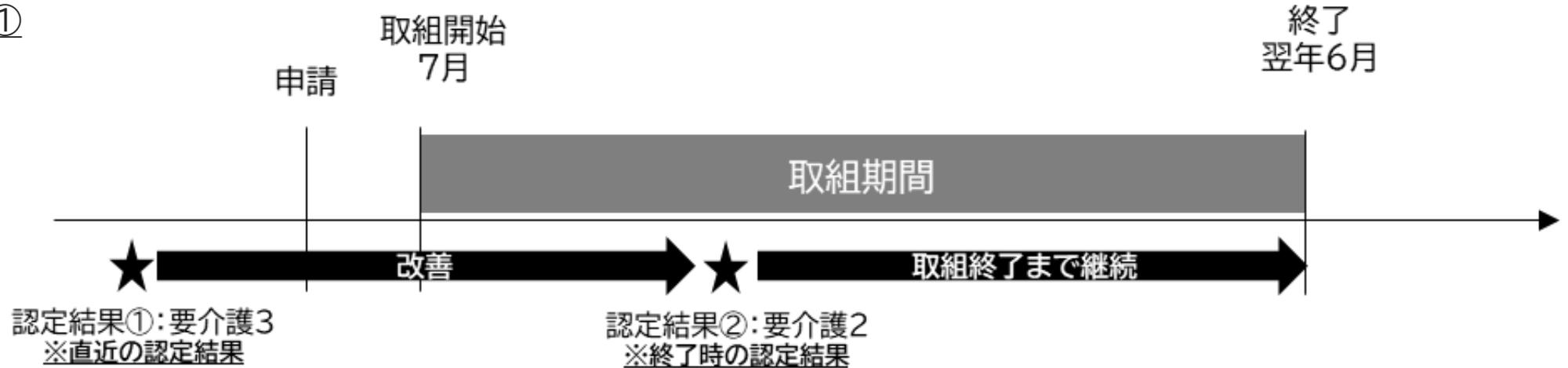
チャレンジ賞

要介護認定の申請(更新・区分変更)を
行わなかった場合は、「③チャレンジ賞」
の受賞となります。

1次評価(考え方)

- 申請日以前の要介護認定結果と取組期間終了時の要介護認定結果を比較し、1次評価を行います。

例①



例②



※取組期間中において更新申請の対象ではない方であっても参加できます。その場合、必ずしも区分変更申請を行う必要はありませんが、認定申請を行わなかった場合は、1次評価ができませんので「チャレンジ賞」の受賞となります。

1次評価(ADL等の評価指標①)

●「能力」に関する調査項目

	調査項目	選択肢
1	寝返り	1.つかまらないでできる 2.何かにつかまればできる 3.できない
2	起き上がり	1.つかまらないでできる 2.何かにつかまればできる 3.できない
3	座位保持	1.できる 2.自分の手で支えればできる 3.支えてもらえればできる 4.できない
4	両足での立位保持	1.支えなしでできる 2.何か支えがあればできる 3.できない
5	歩行	1.つかまらないでできる 2.何かにつかまればできる 3.できない
6	立ち上がり	1.つかまらないでできる 2.何かにつかまればできる 3.できない
7	片足での立位	1.支えなしでできる 2.何か支えがあればできる 3.できない
8	視力	1.普通(日常生活に支障がない) 2.約1m離れた視力確認表の図が見える 3.目の前に置いた視力確認表の図が見える 4.ほとんど見えない 5.見えているのか判断不能
9	聴力	1.普通 2.普通より少し聞き取れる 3.かなり大きな声なら何とか聞き取れる 4.ほとんど聞こえない 5.聞こえているのか判断不能
参加申請時点		取組期間中の認定結果
2.何かにつかまればできる		➡ 1.つかまらないでできる
1.つかまらないでできる		➡ 2.何かにつかまればできる
14	短期記憶	1.できる 2.できない
15	自分の名前を言う	1.できる 2.できない
16	今の季節を理解する	1.できる 2.できない
17	場所の理解	1.できる 2.できない
18	日常の意思決定	1.できる(特別な場合でもできる) 2.特別な場合を除いてできる 3.日常的に困難 4.できない

1次評価(ADL等の評価指標②)

● 「介助」に関する調査項目

	調査項目	選択肢
19	洗身	1.介助されていない 2.一部介助 3.全介助 (※4.行っていない)
20	つめ切り	1.介助されていない 2.一部介助 3.全介助
21	移乗	1.介助されていない 2.見守り等 3.一部介助 4.全介助
22	移動	1.介助されていない 2.見守り等 3.一部介助 4.全介助
23	食事摂取	1.介助されていない 2.見守り等 3.一部介助 4.全介助
24	排尿	1.介助されていない 2.見守り等 3.一部介助 4.全介助
25	排便	1.介助されていない 2.見守り等 3.一部介助 4.全介助
26	口腔清潔	1.介助されていない 2.一部介助 3.全介助
27	洗顔	1.介助されていない 2.一部介助 3.全介助
28	整髪	1.介助されていない 2.一部介助 3.全介助
29	上衣の着脱	1.介助されていない 2.見守り等 3.一部介助 4.全介助
30	ズボン等の着脱	1.介助されていない 2.見守り等 3.一部介助 4.全介助
31	薬の内服	1.介助されていない 2.一部介助 3.全介助
32	金銭の管理	1.介助されていない 2.一部介助 3.全介助
33	買い物	1.介助されていない 2.見守り等 3.一部介助 4.全介助
34	簡単な調理	1.介助されていない 2.見守り等 3.一部介助 4.全介助

● 上記以外の変化を測る項目

	調査項目	選択肢
35	外出頻度	1.週1回以上 2.月1回以上 3.月1回未満

※ 調査項目の選択肢の番号について、直近の要介護認定結果の合計から取組終了時の合計を差し引き、差がプラスであれば改善、ゼロであれば維持、マイナスであれば悪化とする。ただし、「19:洗身」の「行っていない」に該当する者は、「19:洗身」を評価指標から除外する。(その他の34項目の選択肢番号を合計し、評価。)

- 以下の視点を踏まえ、要介護度やADL等の改善に至った取組内容について、評価委員会において金賞チームを選定します。
- 取組内容については、2次評価対象チームから提出いただく**報告書**等を基に評価させていただきます。なお、報告書の様式は、市ホームページ(「ふくおか元気向上チャレンジ」で検索)よりご確認ください。

利用者のQOLの確保

サービス提供に至るまでのプロセス
(目標「利用者のしたい・やりたい」の設定)

- ✓ 利用者の状況把握は適切か
- ✓ 真に利用者が望む目標を引き出しているか(解決すべき課題)

成果に至るまでのプロセス
(アプローチの過程)

- ✓ 利用者の意欲は持続したか(利用者が継続して取り組んでいるか)
- ✓ 生活の継続に向けた工夫があるか
- ✓ 利用者の状態に応じた目標設定の見直しを行い、必要なサービスが提供できているか

チーム連携

サービス提供に至るまでのプロセス
(目標「利用者のしたい・やりたい」の設定)

- ✓ 目標に向けた専門的な視点での検討、多職種協働は適切か(担当者会議等)

成果に至るまでのプロセス
(アプローチの過程)

- ✓ 状態の変化など、チーム間の情報共有は適切か
- ✓ チーム間で目標を常に意識したか

利用者やその家族とのコミュニケーション

サービス提供に至るまでのプロセス
(目標「利用者のしたい・やりたい」の設定)

- ✓ 利用者やその家族とのコミュニケーションは適切か

成果に至るまでのプロセス
(アプローチの過程)

- ✓ 利用者やその家族とのコミュニケーションは適切か
- ✓ 事業参加によって利用者やその家族に変化はあったか

成果・振り返り

- ✓ 成果(好結果)として考えられることは何か(チーム間の連携等)
- ✓ 困難だったことはあったか、その改善策は適切か
- ✓ 目標は達成できたか、または、取組みの満足度は(利用者のQOLの変化)

年 月 日

ふくおか元気向上チャレンジ(在宅高齢者の要介護状態改善事業)
要介護状態改善取組報告書

チーム(介護事業所・利用者)の情報						
登録番号			年齢		性別	
取組時の利用者情報	性格		趣味・楽しみ 特技			
	家族構成や 家族との関係		職歴			
	居住環境 (課題含む)					
	病名・既往歴	入院歴:				
	生活のようす (一日の過ごし方)					
取組参加への背景						
チーム構成 (サービス種別)		参加事業者以外(インフォーマルサービス)				
家族状況や 取組の参加事業所 社会資源など (エコマップ記入)						
取組期間	取組み開始日	230721		取組み終了日		
要介護度	要介護1		要介護			

要介護状態改善取組内容	
目標 (利用者のしたいこと やりたいこと)	
目標設定の理由 (背景)	
チームスローガン	
取組内容	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲の向上や意識を継続するための工夫 ・利用者・家族とのコミュニケーション方法 ・チーム間で目標達成のための意識 ・多職種間協働による相乗効果 ・チーム間の情報共有の方法 ・困難だった際の改善策など
取組後の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・向上への意欲や意識の変化 ・家族、チーム間の変化 ・達成での満足感 ・新たな目標・課題

【事務局記載欄】

	取組み前	取組み後
要介護度		
ADL等のポイント		

インセンティブの内容

	介護事業所	利用者
金 賞	式典における表彰(表彰状) 認証(金) 事例集への掲載 市ホームページ掲載 報奨金(10万円/チーム)	式典における表彰(表彰状) 記念品
銀 賞	表彰状 認証(銀) 市ホームページ掲載	表彰状 記念品
銅 賞	認証(銅) 市ホームページ掲載	表彰状 記念品
チャレンジ賞	市ホームページ掲載	参加の証 記念品

※「認証」は、ステッカーを作製し、お渡しします。また、名刺に印刷するなど幅広く活用いただくため、データでの提供も可能です。

※「事例集」は、参加チームの皆様へ取材を行い、記事にいたします。記事内容は、チームの取組みや事業所情報などを掲載予定です。

※「市ホームページ掲載」について、希望により非掲載とすることも可能です。(掲載の可否は、1次評価決定時に確認いたします。)



参加申込時に利用者へキーホルダー、事業所へ取組中ステッカーをお渡しします。(事業参加のモチベーションアップにご利用ください)

- 提出書類(2点 福岡市ホームページからダウンロード可)

① 参加申請書(介護事業所が記入)

② 同意書(利用者記入用)
(本事業への参加及び個人情報の利用に関する同意書)

- 提出期間

令和6年12月末日まで

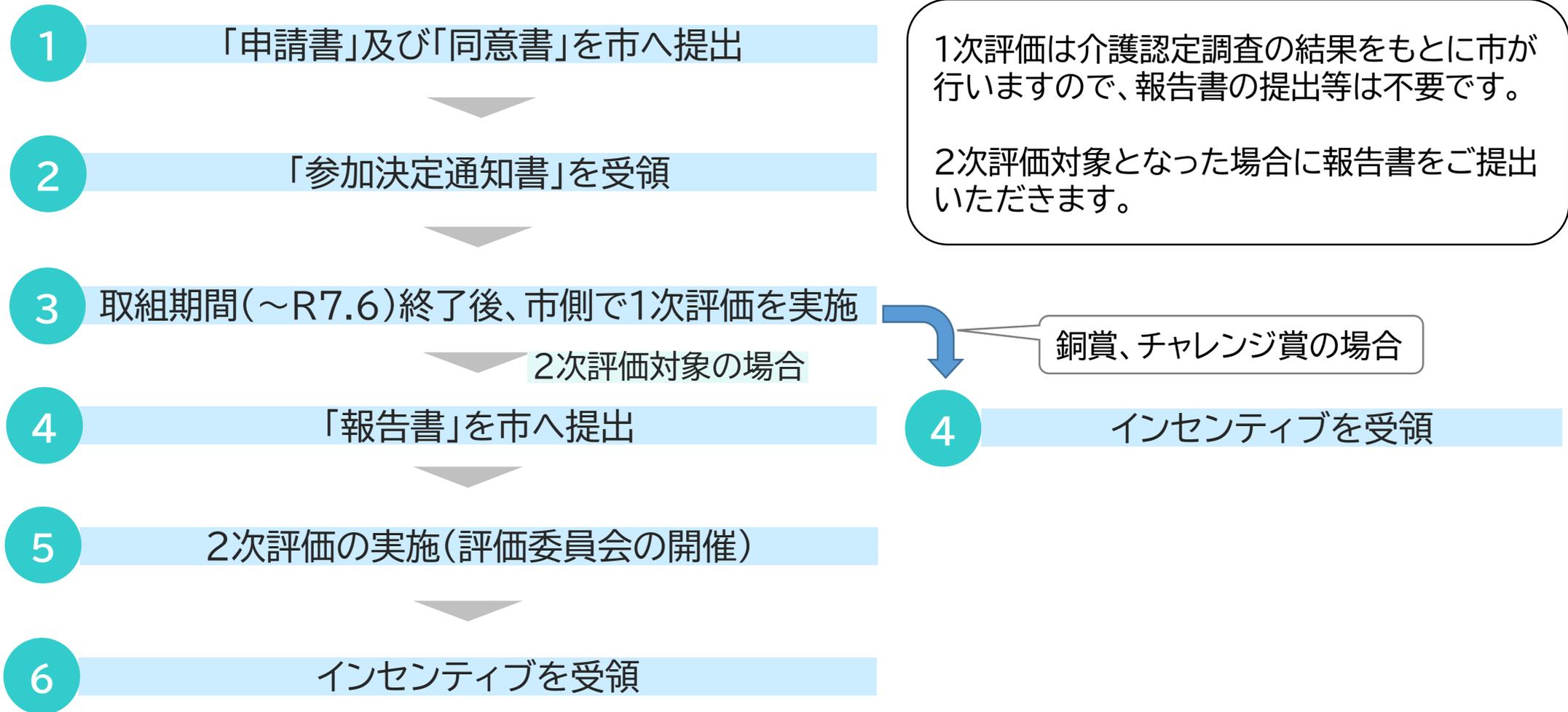
- 提出先(郵送または、窓口へ提出)

〒810-8620 福岡市中央区天神1-8-1

福岡市福祉局高齢社会部介護保険課 重度化防止推進担当

- ✓ 代表となる介護事業所には、インセンティブの受領や手続きなど、市とチームとの窓口的な役割を担っていただきます。
- ✓ 代表となる介護事業所は、その他の介護事業所や利用者を含めチーム単位で、申請をお願いします。
→原則、チームを構成する全ての介護事業所(介護保険のサービスを提供している介護事業所)の参加が必要です。
同じチーム内に参加できない事業所がある場合は、申請前に介護保険課までご一報ください。
- ✓ 「小規模多機能型居宅介護」及び「看護型小規模多機能型居宅介護」については、他のサービスの給付管理を行っていない場合、単独で申請可能です。

参加申請からインセンティブ受領まで



✓ 取組中において、申請内容に変更等があった場合は、「参加内容変更等申請書」の提出が必要です。

《変更等の事由について》

①介護事業所の変更・追加

②参加辞退:利用者自ら参加の辞退を希望する場合や、参加要件を満たさなくなった場合(利用者の死亡・転出、事業所の廃止等)。

	令和6年度				令和7年度		
	4月～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月	4月～6月	7月～9月	10月～12月
募集期間	←————→						
取組期間		————→					
評価期間						————→	◎ 表彰式 講演会
その他		○事業説明会				1次評価・2次評価	

- ✓ 募集受付は、6月から12月まで行います。
- ✓ 7月から翌年6月までを参加チームによる「したい・やりたい」の実現に向けた取組み期間としています。
- ✓ 金賞チームは、式典での表彰を予定しています。また、式典にあわせて、重度化防止に関する講演会を開催予定です。

令和4年度の実施内容

参加状況・結果
表彰式・講演会、事例検討会
インセンティブ内容



※ 令和5年度の実施内容は、12月(予定)の表彰式終了後に公開予定です。

- 令和4年6月から募集 → **37チーム、延べ125事業所**のご参加。
- 令和4年12月までの取組んでいただき、下表の結果となりました。

	評価の内容		チーム数
金賞	要介護度の改善、または、要介護度の維持、かつADL等10ポイント以上の改善	一定の基準を超えたチーム	3チーム
銀賞		それ以外のチーム	2チーム
銅賞	要介護度の維持、かつADL等0～9ポイントの改善等		4チーム
その他	上記以外		28チーム

参加いただいた皆様の声を一部ご紹介します！！

<利用者様>

- 今回、事業所の勧めで参加しましたが、自身が目標にする姿へ色々な事業所の支えを受け前向きな気持ちで取り組めて良かったです。

<事業所様>

- このような取り組みがあることで改めて利用者様のモチベーションの向上に向けた意識作りを構築することができました。
- サービス事業所が主体となって参加しております。対象者および家族を中心とし、リハビリについて、身体機能維持について考える機会となりました。

- アクロス福岡にて、**金賞チームの皆様の表彰式**とタレントの西川ヘレン氏による講演会を開催！



< 来場者の声(抜粋) >

— 表彰式 —

- 本人の意欲がどれくらい強いかで介護度がよくなるのだと感じた。

- こういうイベントがあると、本人・介護する方々にやりがいが生まれると思った。

— その他 —

- ふくおか元気向上、取り組んである事を知りませんでした。良い取り組み感謝です。自分が利用させていただく時の参考になると思いました。

- 当初は講演目的でしたが、介護現場の成功事例と具体的内容を聞くことができ、現在両親の介護にあたる身として大変参考になった。

- 「利用者のQOLの確保」、「チーム連携」、「利用者やその家族とのコミュニケーション」の視点において、重度化防止に対する意識・意欲の向上や介護サービスの質の向上を図ることを目的に、参加事業所向けの**事例検討会(多職種連携のための意見交換会)**を開催！



< 参加した事業所様の声(抜粋) >

- 基本的なことであるが、コミュニケーションが一番大切と感じた。日頃からしっかりと他職員と会話することが円滑な情報交換にも繋がると思う。

- それぞれの職種で困りごとがあることを知り、改善が必要と思った。メールやzoomなどの新たなツールの活用を上手くできるようにならないといけないと思った。

- 参加頂いた皆様が、引き続き重度化防止に取り組んでいただくよう以下のインセンティブ(記念品等)をお渡ししました。

<利用者インセンティブのご紹介>



扇子(記念品・金賞)



マグカップ(記念品・全員)
※軽くて割れにくい素材



表彰状(金・銀・銅賞)
その他の方には「参加の証」

<事業所インセンティブのご紹介>



認証(金・銀・銅賞)
※ステッカー(名刺用データも有)



表彰状(金・銀・銅賞)



事例集(金賞)

- 金賞・銀賞・銅賞の介護事業所様の情報(電話番号や住所等)を、福岡市のホームページに掲載しました。
- 金賞の介護事業所様に報奨金(10万円)を贈呈しました。



心くおか元気向上チャレンジ

第1期 金賞受賞チーム

事例発表

株式会社 ケア美野島

代表取締役・主任介護支援専門員 工藤 明美 様



ケース1

「制止の介護」から「我慢の介護」へ

【事業所】

- 美野島ケアプランセンター
- ほっと・ふぁみりい
- 薬院内科循環器クリニック
- きらり薬局松原店
- しらきはら歯科

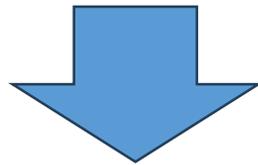


取組前の背景

■ 取り組みのきっかけ



- 転倒による骨折で歩行障害
- 住宅型有料老人ホームで車椅子生活



- さらに改善を目指し、**ふくおか元気向上チャレンジ**に参加！



目 標

- 「早く元気になって娘家族と一緒に生活したい」
- 「楽しく、やりがいや役割を感じられる生活をしたい」



取 組 内 容

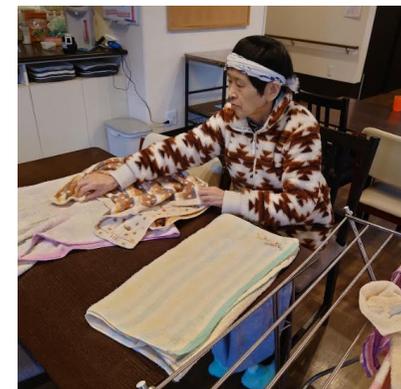
① 静止しない見守り介護で利用者の活動量アップ！

■ 取り組みのポイント

- 「ちょっと待って」の声掛けをあえて我慢・・・
- 行動を見守る介護を実践！！

■ 取り組みの結果

- 活動量が増え、下肢筋力も安定
- 車椅子から立ち上がる場面も

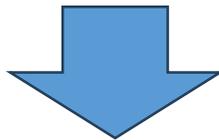


取 組 内 容

②スタッフの見守りでコミュニケーションにも変化が

■取り組みのポイント

- 当初は、意思疎通も難しい状態



- 菊武さんの**気持ちを尊重**
- 積極的に配膳などの手伝いに関わる
- 様々な事業所や職員との交流も増加

■取り組みの結果

- 職員のちょっとした仕事も手伝うまで**元気に!**
- 2か月に一度は家族のもとへ!



取組後



- **要介護4** → **要介護2**
- 下肢筋力が安定、車いすから立ち上がる場面が日常茶飯事になり独歩が可能
- 転倒回数の減少
- 毎月、娘さん宛てに直筆の手紙を書き、**娘さん達も元気になられたことを実感**



おわりに



これからも、
菊武さんとチームの**チャレンジ**は続きます！

